

オーストリアにおける日常語の発音と 文法について

Zur Aussprache und Gramatik
der Österreichischen Umgangssprache

牧 麻衣子

Maiko MAKI

1. 序言

1-1. オーストリア語

ドイツ語はドイツの他、オーストリアやスイスでも公用語として話されているが、各国で用いられているドイツ語は画一的ではなく、それぞれ一部異なった語彙、発音、文法体系を持つ。オーストリアは自国の言語を、ドイツ語の一方言という下位範疇にあるのではなく、「オーストリア語」という独立した言語であると主張している。オーストリアが独自の言語を主張するその姿勢は、*Österreichisches Wörterbuch* (『オーストリア語辞典』) の出版によく表れている。この辞典は、オーストリアにおいて標準語とされるドイツ語の規範を記した辞典であり、オーストリア連邦省の依頼により、学校教育において使用される言語を規範化する目的で編纂されており、学校などの教育機関には無料で配布されている。

こうした『オーストリア語辞典』の成立過程からは、オーストリアが自らの言語の独自性を主張しているように見えるが、Steinegger (1998) によると、「公的な書類上で母語を記入する際、何と書くか」について、「ドイツ語」と答えたオーストリア人は8

7.9%、「オーストリア語」と答えた者は11.6%、「スロベニア語」と答えた者が0.5%であり、「オーストリア語」の占める割合はかなり低いことが分かる。オーストリア語を自国の言語だと主張する一方、いまだ国際的にはオーストリア語は認められていないのが現状である。

1-2. ドイツ語の三層構造

ドイツとオーストリアで使用されているドイツ語は、標準語、日常語、方言という3層から成り立っているとされている。これらの言語層の間には中間的な形態があり、明確に区別されているわけではない。人はしばしば話をしている時の相手や状況、テーマ、そして雰囲気に応じて、ある言語層から他の言語層へと使用する言語を切り換えている。

標準語は日常語および方言の上位に位置し、最も広範囲に使用される公的な言語手段である。

日常語は方言よりも大きな地域に及ぶ標準化されていない変種の一部であり、標準語では堅苦しすぎ、方言では馴れ馴れしすぎる場合に用いられる。

方言は狭い地域で用いられる。オーストリ

アにおいて方言は多くの人にとって最初の母語 (Muttersprache) である。

上述のように、オーストリアにおいて話されているドイツ語は、ドイツのドイツ語とは異なるオーストリア語だと主張されている一方で、標準語や日常語、方言が混在し、明確に区別することが大変難しくなっている。本稿は、Ebner著 DUDEN «Wie sagt man in Österreich?» の一部分を翻訳することにより、オーストリアにおける日常語の発音と文法について明らかにするものである。

2. 母音の発音

標準語の明るい発音 a は、オーストリアとバイエルンにおいてはこもって発音され、それゆえ辞典や方言のテキストではよく a と示される。それと並んで、さらに明るい a もあり、それは標準語ではさらに明るく発音される。これは中高ドイツ語の第二次ウムラウト¹⁾から生じており、ほとんどは ä と対応している。

	ドイツ	オーストリア	意味
Kasten	[kástɔn]	[kɔstɔŋ]	箱, ケース
Wasser	[wásɔr]	[vɔsɔ]	水
Wässrig	[vɛsrɪç]	[wasrɪg]	水気の多い

標準語の発音では過剰修正的に誇張されて明るく発音される。これは学校のやや古い朗読の際の発音の際にも当てはまる。このオーストリアの標準語的 a は、バイエルンのこもった a とは明確に区別される。

バイエルン・オーストリアの方言は、標準語よりもっと多くの二重母音を知っている。それらのうち、Ei の [ɔa] と schliefen の [ɪa] は、日常語にも達した。ドイツ語の正書法は、すなわちスイスとは違い、語間に書かれた ie

はつねに i として読むような影響を与えてきた。しかしながら、口頭の慣用では、日常あるいは日々の言葉と関連づけられるとはいえ、単語の中には二重母音を保持しているものもある。ウィーン方言から発して、都市の日常語においても (チロルやフォアアルベルクは例外にして)、二重母音の oa は単母音の [a:] になる。

	ドイツ	オーストリア	意味
heim	[haɪm]	[ha:m]	家

アクセントのない音節は多くの場合、標準語やドイツのドイツ語とは異なって扱われる。フランス語からの外来語は、語末の e が脱落する。

	ドイツ	オーストリア	意味
Blamage	[blam:ʒə]	[bla`ma:ʒ]	恥さらしな事
Nuance	[nyɑ:sə]	[ny`às]	ニュアンス
Clique	[kɫɪkə]	[kɫɪk]	徒党, 派閥

より強くドイツ語化された単語においては、よりまれに、同様に語幹と接尾辞の間でも e の脱落が起こりうる。

	ドイツ	オーストリア	意味
Garderobe	[gardəro:bə]	[gada`ro:b]	クローク
Bombardement	[bɔmbardəmə:]	[bɔmbard`mä:]	砲撃

映画「O嬢の物語」ではたとえば、オーストリアのテレビでは吹き替えの声優によって [mar`ki:s] と読み上げられた。この形態はオーストリアでは標準語的である。接頭辞・接尾辞におけるアクセントのない -e- は、開音の [ɛ] として発音される。

	ドイツ	オーストリア	意味
leben	[le:bən]	[le:bən]	生きる
Gutes	[gutəs]	[gu:təs]	よいこと
Maedchen	[mɛ:tçən]	[mɛ:tçən]	少女

ドイツの標準発音のəはオーストリアには一度も存在したことはなかった (古いə (schwa-Laut) はとくに消滅しているのだから)。

-ea- において e は、ドイツのドイツ語においては (標準発音ではない場合でも) 弱まった a [ɐ] として、オーストリアにおいては (わずかに二重母音化した) 閉音の e として現れる。

	ドイツ	オーストリア	意味
Mineral	[minera:l]	[mine`ra:l]	鉱物
operieren	[opəri:rən]	[ope`ri:ren]	手術する

閉音節のアクセントのない e は、外来語においては開音として発音されて [ɛ] となる (ドイツのドイツ語では閉音として発音される)。

	ドイツ	オーストリア	意味
Reflex	[reflɛks]	[rɛflɛks]	反射

これは同じ位置の開音節の o にもあてはまる。

	ドイツ	オーストリア	意味
Auto	[auto]	[a:to]	車

オーストリアの発音の一般的な傾向は、鼻音化である。これはとりわけウィーンを中心としてオーストリア全体にあてはまるが、しかし話者にはほとんど意識されていない (Graf-Bobby のきち話²⁾ はそれゆえ、本来鼻にかかって語られた)。さらに、母音の鼻音化と同時に、多少なりとも明確な二重母音化も起こっている。H.C.アルトマン³⁾以降の「新方言文学」はそれゆえ、二重母音表記によって鼻音化を示している。

ドイツ	オーストリアの表記	意味
dann	daun	それから
Zahn	Zaun	歯

短母音の i, u と ü は閉音節において閉音として発音される (それに対しドイツでは開音である)。

	ドイツ	オーストリア	意味
Wille	[vɪlɐ]	[vɪlə]	意志
müssen	[mʏsən]	[mʏsen]	…しなければならぬ
uns	[ʊns]	[ʊns]	わたしたちに

3. 子音の発音

日常語の、あるいは日常語に由来するオーストリアの単語の正書法をてがかりとして、Ballawatsch / Pallawatsch, Depp / Tepp, Golatsche / Kolatsche といった b/d, d/t, g/k のひんぱんな二重語形化が目立っている。この原因は、閉音はもはや区別されずに、軟音⁴⁾と硬音⁵⁾の中間音で話されることにある。Peger, Berger のような名前の書き方もそこからきている。この結果は、学校の授業にまで及んでいる。b と p の区別がこれらの地域において大きな正書法の困難さを引き起こしている。

古いバイエルンの状況を保っていた南の連邦州 (ケルンテン, チロル) における子音の体系は、違った状況にある。これらの地域から、いわゆる高地ドイツ語の子音推移が始まり、そしてここで完全にゆきわたったのである。つまり、k → kch, p → pf, t → z への推移である。Speckchnödel という単語はそれゆえ、典型的なチロルの発音の例としてよく挙げられる。

閉鎖音の強弱の発音と密接に結びついているのは、ドイツ語の標準発音において定められている子音の有声・無声の発音である。有声の子音はオーストリアにおいて決して土着のものではなく、標準語では習得されたものとして現れるに過ぎない。しかしこれは b, d, g だけではなく、s や sch にも該当してい

る。標準語から日常語に近づけば近づくほど、有声と無声の発音の対立は強弱によって置き換えられる。これは中部バイエルン方言において、結局のところ完全に違いが欠けている。外国語の単語の語尾の -age は、したがってドイツの標準発音では [-a:ʒ] とされるが、オーストリアの日常語では [-a:ʃ] である。強弱、無声／有音の違いは、たいてい話者には特に意識されていない。子音の発音におけるそれ以外の特徴は、語の内部における st と sp という綴りを、[ʃp][ʃt] と発音することである。

	ドイツ	オーストリア	意味
Kasperl	[kaspər]	[kaʃpəl]	道化役
Wurst	[vʊrst]	[vuʃt]	ソーセージ

また、l と r の音の母音化も起きている。

	ドイツ	オーストリア	意味
alt	[alt]	[ɔɪd]	…歳の、古い
sparen	[ʃpa:rən]	[ʃpəən]	蓄える

接尾辞 ig は、標準発音では [-iç] と記されるが、オーストリアではいつも -ig で話される。

4. 母音の長さとはアクセント

母音の長短は多くの場合、個人の違いがあり、ドイツ語のドイツ語においてもまた画的ではない。オーストリアの言語慣用において、いくつかの特徴が認められる。標準語において、ドイツのドイツ語では長母音である、アクセントのある短母音のグループがある。

	ドイツ	オーストリア	意味
Schwert	[ʃve:rt]	[ʃvert]	刀、剣
erst	[e:rst]	[erst]	第一の
Erde	[e:rdə]	[erdə]	地球、地面
Art	[a:rt]	[art]	性質、やり方
Bart	[ba:rt]	[bart]	ひげ

Arzt	[a:rtst]	[artst]	医者
Tratsch	[tra:tʃ]	[tratʃ]	うわさ話
Montag	[mo:nta:k]	[monta:k]	月曜日
Geburt	[g?bu:rt]	[g?burt]	誕生
Husten	[hu:stən]	[hustən]	せき
Behorde	[bəho:rdə]	[bəhordə]	官庁

逆に、ドイツのドイツ語では短母音である、長母音のグループがある。

	ドイツ	オーストリア	意味
Bruch	[brux]	[bru:x]	破損
Geruch	[gəru:x]	[gəru:x]	におい、香り
Rachen	[rɛçən]	[r:çən]	復讐をする
hin	[hɪn]	[hɪ:n]	あちらへ
Vorteil	[fɔrtaiɪ]	[fɔ:rtaiɪ]	有利、利益

とりわけ目立つのは、特に Chef のグループでは、長いだけでなく、閉鎖音の e で発音されることである。

	ドイツ	オーストリア	意味
Chef	[ʃɛf]	[ʃe:f]	上役

バイエルン方言の基本は、1音節の単語における長い発音に基づいている。(どれも語末の子音は弱い。)

	ドイツ	バイエルン方言	意味
Fisch	[fɪʃ]	[fɪ:ʃ]	魚
Tisch	[tɪʃ]	[tɪ:ʃ]	机
Schritt	[ʃrɪt]	[ʃrɪ:t]	歩み
Ross	[rɔs]	[rɔ:s]	馬
Fleck	[flɛk]	[fle:k]	染み、斑点

この長さは、日常語にもあてはまる。方言的な話し方ではとりわけ、単語が複数の音節をもつとき、単語を短く発音するという規則を保っている。

定冠詞の das はしばしば、接続詞の daß の

長い a とは対照を成している。理由は学校の正書法の授業にあるのかもしれない。一方では、語末音の s は無声ではいけないということ、また一方では母音の音の長さのある種の不確かさ、である。

ドイツのドイツ語の対立において、外国語の単語のアクセントのある音節 (it, ik, atik) は短母音で発音される。

	ドイツ	オーストリア	意味
Politik	[politɪ:l]	[politɪk]	政治
Thematik	[tema:tɪk]	[tematɪk]	テーマの範囲
tematisch	[tema:tɪʃ]	[tematɪʃ]	テーマの

-atik の単語はまた文法規範 (ドイツのドイツ語では短い a を持つ) によって扱われる。

単語のアクセントにおいては、2つの基本的指針が知られている。組み合わせられた単語は、最初の音節にアクセントがあるが、その際に、話すシチュエーションや、文章の組み立て方に影響を及ぼしている。

	ドイツ	オーストリア	意味
absichtlich	[apzɪçtlɪç]	[apzɪçtlɪç]	故意の
abteilung	[aptəɪlʊŋ]	[aptəɪlʊŋ]	部門

フランス語の単語は、最後の音節にアクセントが強く置かれる。そして結果として、他の外国語も、語末アクセントの傾向にある。

	ドイツ	オーストリア	意味
Kanu	[ka:nu]	[kanu]	カヌー
Kakadu	[kəkadu]	[Kakadu]	オウム

これらのアクセントの違いは、全文のメロディーや響き全体として働いており、特殊なケースにおいてのみオーストリアの特徴として目立っているわけではない。以下の有名な例は例外である。

	ドイツ	オーストリア	意味
Kaffee	K <u>ä</u> ffee	K <u>ä</u> ffee	コーヒー
Tabak	T <u>a</u> bak	T <u>a</u> bak	たばこ

5. 語形変化

オーストリアにおいて名詞は、標準語では -e である語末を、-en に変化される傾向にある。

	ドイツ	オーストリア	意味
der Schlanke	der Schlanke	der Schranken	戸棚
die Butte	die Butte	die Butten	桶
die Watsche	die Watsche	die Watschen	平手打ち

日常的に -e という形である名詞 (例えば Watsche のような) は、たいてい書き言葉的ではないが、しかし文献の中には、比較的強く定められている — 日常語においては属格が欠けているのである。所有の 2 格の変わりに von (das Haus vom Nachbarn) や sein (dem Nachbarn sein Haus) とともに使う 3 格が使われる。名詞の性はしばしば、標準語とは区別される。(* は方言的である。)

	ドイツ	オーストリア	意味
die Ecke	die Ecke	das Ecke	角
die Heuschrecke	die Heuschrecke	der Heuschrecke	バッタ
die Kartoffel	die Kartoffel	der Kartoffel	じゃがいも
die Schokolade	die Schokolade	der Schokolade	チョコレート
der Teller	der Teller	das Teller	皿
die Mutter	die Mutter	der Mutter*	母

同時に、オーストリアとドイツの間で、標準語的な性別の違いもある。

	ドイツ	オーストリア	意味
das Gummi	das Gummi	der Gummi	ゴム

動詞の特異性としては、複数形の命令形と二人称複数形の -s である。

ドイツ	オーストリア	意味
geh!	gehts!	行け!
spiel weiter!	spielt weiter!	(ゲームを) 続けて!
seid fertig?	seids fertig?	もう終わった?
habt genug?	habts genug?	もう十分?

接続法1式, 2式は方言では欠如しているが, 標準語の中にはしっかりと組み込まれている。典型的な例として, 明るいaを含む動詞の形式がある。

ドイツ	オーストリア	意味
Wenn ich du ware, gabe ich nichts her	wann i du wa(r), gab i nix her	もしぼくが君 だったら, 譲 らないだろう

場所を示す方言的な副詞は, 下記の表のように示される。これらの単語は, 方言の文法的な体系に基づいており, 方言で書かれた本にのみ記される。

ドイツ	オーストリア	意味
herab	aba	下へ
hinab	abi	下へ
herauf	auffa	上へ
hinauf	auffi	上へ
heraus	aussa	上へ
hinaus	aussi	外へ
herein	eina	中へ
hinein	eini	中へ
heruber, herum	umma	こちらへ
hinuber	ummi	こちらへ
herzu	zuwa	こちらへ
hinzu	zuwi	その上

それらはしかしながら, 方言的な言語慣用においてかなり頻繁に, また, 日常語あるいは日々の言葉にも関係しているので, オーストリアやバイエルン方言としての最も重要な目印となる。標準語の体系は, draußen と außen, da と dort の使用における差異の上

に成り立っている。接続詞 weil は並列に用いられ, また, denn と同様の順番に置かれる。この使われ方はしかし文法的には正しくないが, オーストリアにおいてとくに口語レベルでは有効である。原因を意味する接続法としての indem と nachdem の慣用はオーストリアでは制限されない。代名詞の mir (wir) という形式は, 日常語において典型的である。

6. 文構造

オーストリアの統語論がドイツのドイツ語からどの程度はなれているかは, まず言語学的に調査しなければならない。一般的な特異性は, 標準語の規範の範疇にとどまっている。オーストリア的な日常語の最も目立つのは, 過去形の欠如である (war は例外である)。会話では現在完了が使われる。標準語で書かれたテキストはしかし, オーストリアでも過去形を使っている。新聞では, たとえば方言的な発言では, 現在完了形になっている。過去形の欠落は, すべての時制体系に影響を与えている。標準語の文法は, 過去形と現在完了の使用の違いを明確に定めているが, オーストリアではこれはあてはまらない。一方, 過去形と現在完了の新しい混在形もある。

ドイツ	オーストリア	意味
Er hatte gesagt	Er hat gesagt gehabt	彼は言った。

この形は2重の過去ではなく, 過去完了である。標準語の文面においても, 時制はよく混在する。

Da er von allen sechs Feuerwehrleuten der staerkste gewesen war, hatte er die uebrigen fuenf mitsamt dem Sprungtuch mitgerissen gehabt und in dem ugenblick, in welchem der Selbstmoerder, ein

ungluecklicher Student, wie die Zeitung schreibt, auf dem Platz unter dem Hause, an welchem er sich so lange festgeklammert gehabt hatte, aufgeplatzt war, waeren sie selbst zu Boden gegangen (Thomas Bernhard: Der Stimmenimitator 21/22).

7. 造語

オーストリアの標準語にとって、典型的な造語方法は、複合語の接合部 -s である。とりわけ g, k, z のあとの, Fabrik や Werk などといったある規定語において顕著である。

ドイツ	オーストリア	意味
Fabrikarbeiter / Fabriknamen	Fabriksarbeiter / Fabriksnamen	工場労働者/ 工場名
Werkanlage / Werkfahrer	Werksanlage / Werksfahrer	工場施設/ 作業運転手
Zugabteil / Zugverspaetung	Zugsabteil / Zugsverspaetung	コンパートメント/ 列車の遅れ
Gepackkontrolle / Gepackwagen	Gepackskontrolle / Gepackswagen	荷物検査/ 貨物車両
Gesangbuch / Gesangstunde	Gesangsbuch / Gesangsstunde	賛美歌集/ 歌のレッスン

この -s の形式は、すでに 2 格の en が挿入された、それも、職業+妻/娘の複合語の場合においてもまた発生する。

ドイツ	オーストリア	意味
Architektengattin	Architektensgattin	建築家の妻
Arztengattin	Arztensgattin	医者 の妻
Diplomatengattin	Diplomatensgattin	外交官の妻

方言と日常語においては、接頭辞 der (標準語的には er, しかししばしば dieses として使われる) と, ge- / Ge- がある。

ドイツ	オーストリア	意味
umstosen	derschlagen	突き倒す
verletzten	derstessen	傷つける

sich ergangen	derfangen	発せられる
geschoren	geschert	田舎くさい
schlimmes Kind	Gfrast	困った子ども

この Ge は日常語的には e なしで発音されるので、正書法における不確かさが存在する (Geriß / Griß)。辞書では、これらの例は個々に決定される。一般的には、標準語的には Ge, 日常語的には G, たいてい両方が載っている。

縮小形 -erl [-ɐl] の形は、もともとはとくに東オーストリアのものである。日常語において、連邦州の大部分 (バイエルンの一部も) で、そして今日は書き言葉においても、とても生産的である。

ドイツ	オーストリア	意味
Aufkleber	Pickerl	ステッカー
kleiner Sack	Sackerl	(小さな) 袋

これらの場合において、音節 1 単語で構成されているから、接尾辞なしでは成立しない。たとえば Stockerl (Hocker) は Stock の縮小形ではない。複数形としての -erl の単語は、このごろでは統一された erln という形式で認められている。また、縮小形音節の -el は複数形の -eln となっている。その他においては、-el の単語は適応した標準語の複数形の規則に従っている。しかしそれらは、複数形の -eln の傾向が存在しているために、縮小形音節として感じられる傾向にある。この区別は話者にとっては簡単ではないので、しばしば -n は自由に任されている。

注

- 1) 11世紀のドイツ語では第一次ウムラウト a → e の表記が見られなかった -ht-, -hs- などの特定の子音の前でも、語幹音節の a の変母音が表記されるようになった現象のこと。

- 2) 1960年ごろウィーンで人気となったコメディ。
- 3) 1921年ウィーン生まれの詩人。コミックAsterixをウィーン方言に翻訳したことで知られている。
- 4) 閉鎖音と摩擦音の調音上の特徴で、筋肉の緊張の度合いの弱いもの。[b][d][g]など。
- 5) 破裂がより強く、緊張がより高い子音。[p][t][k][f][s]など。しかし必ずしも無声音というわけではない。

参考文献

《欧文》

- Ammon, Ulrich: Die deutsche Sprache in Deutschland, Österreich und der Schweiz. – Berlin: Gruyter, 1995.
- dtv Atlas zur deutschen Sprache. – München: dtv, 2005.
- Ebner, Jakob: Duden «Wie sagt man in Österreich?» : 2., vollst. Ueberarb. Aufl. – Mannheim, Wien, Zuerich: Bibliographisches Institut, 1980.
- Eichhoff, Jürgen: Wortatlas der deutschen Umgangssprachen. – Bern/München: Francke/Saur, 1977.

- Steinegger, Guido: Sprachgebrauch und Sprachbeurteilung in Österreich und Südtirol.: Ergebnisse eine Umfrage. [= Schritten zur deutschen Sprache in Österreich, Vol.26]. – Frankfurt: 1998.
- Wiesinger, Peter: Das Österreichische Deutsch. – Wien: Böhlau, 1988.

《辞典》

- Österreichisch-Deutsches Wörterbuch. – Wien/ Salzburg: Residenz Verl., 1995.
- Österreichisches Wörterbuch. – Wien: Österreichische Akad. d. Wiss., 2009.

《邦文》

- 河崎靖『ドイツ方言学 –ことばの日常に迫る–』現代書館, 2008.
- 河野純一『ウィーンのドイツ語』八潮出版社, 2006.
- ヨアヒム・シルト『ドイツ語の歴史』大修館書店, 1999.